■機械工学科

主任教授　眞保良吉

まえがき

卒業生の皆様方には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。以下に、平成28年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

卒業と就職状況

機械工学科ではこの3月に113名が卒業し、その内28名が大学院修士課程（内、他大学大学院1名）に進学し、82名が就職、その他が3名でした。また大学院では、21名の修士修了生について19名が就職という結果でした。

新入生

平成28年の入試では、合格数を厳し目としたため機械工学科は最終的に104名の入学数にとどまりました。また大学院機械工学専攻修士課程には27名が入学しました。また昨年度の学部入学生から対象となるTAP（2年後期でのオーストラリア留学）には、本年度は12名が登録を行っています。

その他

新入生のフレッシャーズキャンプでは、昨年度に続きバレーボール大会と、パスタタワー製作（スパゲッティの乾麺で塔を作る）を行わせ、創意工夫の面白さを体験させました。また新人の職員として、機械材料研究室に丸山恵史講師が加わりました。このように学科教員一同、教育・研究の改善に努めております。卒業生の皆様には、これまでと同様ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■機械システム工学科

主任教授　田中 康寛

平成28年3月に第16期生104名、機械システム工学専攻修士29名と博士1名がそれぞれ卒業、修了し、4月には学部新入生91名、大学院新入生41名（博士課程4月入学1名と9月入学2名を含む）を迎え、記念すべき設立20周年目がスタートしました。4月には新入生の歓迎行事であるフレッシャーズキャンプが湯河原温泉で開催され、教職員との親睦が図られました。

10月29日（土）には、恒例となりました、第9回MESSAGE (Mechanical Systems Symposium by all Ages) が、学園祭の時期に合わせて開催されました。今年度も、若手の卒業生6名をパネリストとしてお越しいただき、OBから寄せられたアンケート結果をもとにパネルディスカッションを実施しました。現役学生にとっては、様々な視点から見た学習の意義を改めて認識するとともに、就職へモチベーションを高める大きなきっかけになりました。皆様のご協力を感謝します。なお詳細は大学ホームページの“トピックス詳細”をご覧ください。

MESSAGE のパネルディスカッションのパネリスト

■機親会

会長　松村慶一（S49機械）

機親会は、現在15,387名で構成されています。既に東京都市大学になって4期の卒業生および修了生（学部851名、大学院210名）が巣立ちました。そして昨年は機親会にとって記念すべき多くの事柄がありました。

★機親会発足80周年記念総会・講演会（参加者108名）を大学祭、ホームカミングデー（10月30日）に同時開催しました。当日は会長から機親会発足からの変遷を、そして安味貞正名誉教授（S33機械）に「母校への思い」と題して講演いただきました。皆様と共に80周年を祝し、将来に向かっての繁栄に研鑽、努力を誓いたいと思います。

★本田技研工業㈱代表取締役社長八郷隆弘氏（S57機械）をお迎えして、昨年の入学式の日（4月2日）に、記念懇親会（参加者104名）を開催しました。大学院入学生を招待し、OB・OGとの懇談ができたことは、本会の本望との思いを新たにしました。

本年は、会員の相互交流をより一層活発にするよう取り組みます。HP、メールなどのインフラを整備し、研究室動向、会員相互の情報交換などの情報発信を始めます。

大学が発行する主な冊子

名　称	Web（大学のホームページからのリンク）	主対象
東京都市大学　大学ガイド	ホーム＞大学ガイド	受験生
東京都市大学　大学案内	ホーム＞資料請求＞大学ガイド請求	
TCU QUARTERLY－都市大だより－		
研究室ガイド	ホーム＞研究室ガイド	
TCU Research Directory（研究者一覧）	ホーム＞Research Directory	
学修要覧（学修評価及び卒業・修了認定基準）	ホーム＞情報公開（各種データ）＞学修評価及び卒業・修了認定基準	在学生
シラバス（教授要目）	ホーム＞学部・大学院＞シラバス（教授要目）	
東京都市大学	—	卒業生
ANNUAL REPORT 事業報告書	五島育英会＞五島育英会概要＞事業計画･報告、財政公開など＞年次事業報告書	

■原子力安全工学科

■医用工学科

主任教授　森　晃

医用工学科最近の近況

医用工学科は、臨床計測器械工学（森、和多田）、生体計測工学（島谷、京相）、知覚システム工学（桐生、平田）、生体認知工学（仁木、桃沢）４つの研究室からなり、４つの研究部門が互いに連携しながらヒトの健康に役立つ教育と研究を行ってきています。学科は 2007 年に開設され、より受験生に理解しやすい学科名称のために、2013 年に生体医工学科から医用工学科と学科名を変更しました。

医用工学科は医学と工学を勉強したい学生が入学してきます。最近の医療機器の進歩は著しく医療機器のシステムを理解するのに教員の方も苦労しております。最近では、臨床工学士の資格を取得するために入学してくる学生も増えてきており、学科としては学部４年生で専門学校と連携しダブルスクール（大学と専門学校両方）に通うことを可能し卒業と同時に臨床工学士の受験資格が取得することが可能となりました。2 年、3 年生では、ラット、ヤギなどを使用し実際の医療機器を使用しながら勉学する実物教育があります。また、旗の台の昭和大学病院で実際の高度な医療機器が使用されている現場を、健康診断的医療機器を東急病院で見学する実習があります。このように、医療機器装置の現状や配慮についての学習は、装置の原理や使用法を学ぶ座学では難しく、実際の現場での経験をいかして学習することができる最高の場となっております。

■原子力友の会

学生と教職員と卒業生の交流の場の創出に向けて

羽倉尚人（H17 エネルギー基礎）

■ 2016 年 6 月 12 日、大学（世田谷キャンパス）のオープンキャンパスの日に合わせて定期総会を行った。総会に参加する卒業生に現在の学科の様子、研究室の状況を見てもらうことにもつながると考え、このような日程での開催とした。オープンキャンパス（写真）には、学生も説明要員として参加しているため、その学生にも総会に参加してもらうことができた。さらに、教職員にもいつもより多く参加してもらえた。総会では、今回のように学生と卒業生がもっと交流できる場を作れないか、年末から春にかけて先輩（卒業生）から後輩（学生）へ就職活動に資するアドバイスを行う会ができないか、といった提案があった。例年こうした提案はあるが実現できていない。お互いに膝詰めで交流する機会はやってみると非常に有意義で、学生にとって良い刺激を与えるので、ぜひ実現に向けて進めていきたい。

■年度末の卒論発表会で優れた発表をした学生に対して、学位授与式の際に「友の会賞」を贈っている。本会の活動の詳細は、ホームページに掲載している。ぜひご覧ください。

（http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html）

■エネルギー化学科

主任教授　高橋　政志

エネルギー基礎工学科として1997年に設立され、今年で20年目となりました。昨年3月に16期生81名を送り出し、4月には72名の新入生（うち女子学生17名）を迎え、学科の歴史が少しずつ積み重なっていくのを実感しています。

フレッシャーズキャンプでは一昨年と同じ千葉県勝浦のホテルに宿泊し、1日目はバレーボール大会、2日目は太平洋セメント中央研究所を見学しました。また、初日の夕食後には化源会の上級生による懇親会の企画があり、新入生同士および新入生と教職員間の距離が一気に縮まって、大学生活を順調にスタートしています。

新入生歓迎会

教育講師の坂井秀敏先生が着任されました。坂井先生は都立高校の校長先生として多くの実績をもち、理科教育でも指導力に定評があります。授業は演習科目を中心に、1、2年生の専門基礎科目を担当していただきます。

研究室対抗野球大会

卒業生の皆さまにおかれましては、様々な視点からのご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

フレッシャーズキャンプ

■電気電子工学科

主任教授　野平　博司

4月に多くの新入生を迎え、例年通り新入生、補助の上級生およびクラス担任などの教員が参加して1泊2日（鴨川ホテル三日月に宿泊）のフレシャーズキャンプ（教務ガイダンス、スポーツ大会、グループ討議、飯盒炊爨などを行う）で新学期がスタートしました。新入生が、見知らぬ他人から友達を作ったり、教員や上級生との面識をつくることが狙いの行事で、初めての大学生活を円滑にスタートするのに大変効果的です。掲載の写真（学科のホームページ http://www.ee.tcu.ac.jp/ から）は2日目のマザー牧場での飯盒炊爨後に撮ったものです。学科の教職員については、平成28年度から、これからの発展が期待されているスマートグリッドなどの電力分野が専門の中島教授が着任されました。今後も、当学科の魅力の向上を目指して改革を行っていきます。最後に、平成28年度の就職状況は、企業から即戦力として期待されている大学院修了者については全員内定しましたが、残念ながら学部卒は全員ではありませんでした（1月末時点）。来年度以降は学部卒も含めて100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。

■電友会報告

会長　石田　弥（S45電気）

電友会は母校の電気電子工学科、電気電子情報工学科、電気工学科、電気科のOBの同窓会（学科同窓会）ですが、最近は60歳未満の若い会員の参加が極端に少ない状況にあります。

会の活性を図るべく、会員が電友会の目的（会員相互の親睦、知識の交換、母校の発展に寄与）に深いPleasureを感じられるためにビジョンを作成し、学生支援など行動目標を設定致しました。

既に会員のご協力を頂き学生支援として電検三種の取得支援やフレッシャーマンセミナーを実施致しました。当会は昨年11月に創立50周年を迎えました。記念事業を計画しその取り組みを契機に一人でも多くの会員の参加や協力を呼びかけて参ります。また電友会のHPを作成致しました。東京都市大学のHPよりアクセスして下さい。引き続き皆様のご協力、ご参加をお願い致します。

＜平成28年度の報告＞

1、幹事会（平成28年4月16日）：ビジョン「全国・全世界の会員を発掘し、会員相互の交流の場を創成し、会員が自発的交流を図ることで、会員一人ひとりが誇りを感じる電友会を実現する」を採択した。

2、常任幹事会（計4回開催）

3、50周年記念事業準備会（計2回開催）

＜平成29年度の予定＞

1、幹事会（未定：平成29年4月に開催）

2、電友会設立50周年記念式典（平成29年7月8日）

平成29年7月8日（土）開催　電友会設立50周年記念式典
於：東京都市大学メモリアルホール

■建築学科

■都市工学科

主任教授　丸山收（S58土木）

都市工学科および都市工学専攻では、平成27年度の土木技術検定試験で89名の合格者が出ました。これは平成27年度の所属別合格者数で全国1位の人数です（本学調べ）。土木技術検定試験は、大学卒業程度の能力を問う検定試験であり、土木学会が実施しているものです。今後も、本学唯一のJABEE認定プログラムとして、教育の質保証に関する改善活動を継続して実施して行きます。

また、国際的に活躍できる技術者育成のための取り組みを行っています．昨年11月にフィリピンのデラサール大学で本学学生8名が研究発表を行いました。また、さくらサイエンスプログラムによりタイ国タマサート大学学生を受け入れました。

平成28年度からスタートした、大学院都市工学専攻の社会人対象コース「社会基盤マネジメント」に、20名程度の学生が入学しました。学科の動向は、http://www.civil.tcu.ac.jp/ をご覧ください。

学生の就職状況も好調です。学生の就職には、本学卒業生の皆様の強力なご支援をいただいております。

最後になりますが、昨年7月に本学名誉教授　神山光男先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

■如学会

■緑土会

副会長　小林哲男（S47土木）

私は平成26年度の定期総会において緑土会副会長に選出され現在も務めさせて頂いていますが一昨年より「緑土会活性化に向けて（PJ）」を実施し新しい施策に沿って会員・スタッフ共々活動しております。今年度の主な活動報告の詳細は緑土会ホームページに掲載しております。校友会HP（http://www.tcu-alumni.jp）から学科同窓会（クリック）・「緑土会HP」がご覧いただけます。

(1)「定期総会・講演会・懇親会」2016年11月12日（土）に参加し易いように場所と開催曜日を変更し、東京都市大学世田谷キャンパスにて開催しました。今回は初めて「講演会」も企画、皆様の積極的な参加を頂き、交流と親睦を深める事が出来ました（招待者・在学生を除き103名）。平成29年度は2017年11月11日（土）世田谷キャンパスで開催します。

(2) 4月以降、幹事会2回、役員会・代表幹事会3回、総務会6回を開催し、「緑土会の活性化」「学生支援」「会則変更」等の課題に取組みました。

(3) 緑土会の実質的な活動の為に5つの部会を組織化し、約40名の部員にて活動を開始しております。「財務部会」「広報・校友会部会」「組織管理部会」「学生支援・セミナー部会」「会報・HP部会」です。皆様の参加を是非お願いします。

(4) 昨年4月より「緑土会HP
に会報「りょくど」を毎月末発行し、12月末には9号の掲載となりました。是非ご覧頂く様にお願いします。この項での情報の収集・投稿の募集をしています。ご連絡下さい。

(5) その他　活動予定等は、「緑土会HP」に掲載しています。今後、会員への情報は「緑土会HP」でお知らせし、ハガキ等では行いませんので「学年幹事」の皆様は特にご注意下さい。

■情報科学科

主任教授　宮内　新

平成28年度は97名の新入生が入学してきました。平成28年12月1日現在、1年生96（11）名、2年生107（19）名、3年生107（12）名、4年生106（15）名となり（括弧内は女子学生数内数）、総数は416名になります。近年女子学生数も順調に増加していることがわかります。

平成28年4月より教授として大屋英俊先生が着任されました。大屋先生のご専門は制御理論で、ご着任でより密な教育が実施でき、学生諸君の実力が向上するものと確信しております。また、平成27年4月より、田口亮教授が知識工学部長を務めておられます。平成28年度からは大学全体の国際化重視の方針に従い本学科入学生もTAPに参加し、現在準備教育（英語）の学習に励んでおります。

平成28年度の就職状況は以前に比べて大幅に改善され、学生諸君の内定率は前年度に比べ上昇しました。しかし企業の選抜基準は厳しく、就職活動に苦労している学生もおります。平成27年度から毎年の就職協定の変更により、就職活動期間が実質上大幅に伸びましたが、実態は以前と変わらない状況という企業も多く、全く予断を許さない状況にあります。

本学科は今後も、教育の質をさらに向上すべく努力いたします。合格者の偏差値や卒業生の就職内定率を維持、向上させていくために、今まで以上のご支援をお願い致します。

■情報通信工学科

主任教授　佐和橋　衛

情報通信工学科では，平成28年度は，61名の学生が入学しました．平成28年度は，女子学生数が，4年生が7名，3年生が9名，2年生が6名，1年生は7名で，女子学生数の比率が増大している傾向が続いています．最近数年間に入学した学生は，非常に真面目であるものの，特に男子学生は積極性にやや欠如している傾向が見られます．一方，平成28年3月に卒業した本学科の4年生は，大学院への進学者の比率は40%弱であり，就職は引き続き高い就職率を実現しています．学科学生の行事として，通友会の役員の学生が主導して，2年生に対して各研究室の見学が行われました．本学科の各研究室では，学生の技術力，英語力の向上と視野を広げることを目的として，国内外の学会発表を積極的に行っています．平成14年度より本学にご着任され，知識工学部長をご歴任されるなど，本学部，本学科の運営に多大なご貢献をされてきました山本尚生教授が平成29年3月でご退職されます．引き続き本学科は，企業，社会の要請に応える技術者を育成すべく教育・研究により積極的に取り組んでいきますので，ご支援，ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます．

平成28年4月の1年生のフレッシャーズキャンプで各班の発表準備作業の様子

メールアドレスの登録を！！

校友会では行事等をお知らせするサービス提供や情報発信に電子メールの活用を進めていきたいと考えています。つきましては、ぜひ皆様が現在お使いの電子メールアドレスの登録をお願いいたします。

〈登録方法〉

下記のURLにアクセスし、住所、氏名、卒業年、学科、会員番号（会報在中封筒のお名前の右下の番号）、メールアドレスを入力して登録してください。

スマートフォン、携帯電話からはQRコードをご利用ください。

URL：http://www.tcu-alumni.jp/ssl/htdocs/

メールアドレスをお持ちでない方にはFAX番号を登録いただき、FAXで同様のサービスを受けることができるようにいたしますので備考欄に“FAXでの案内希望”とご記入の上登録してください。

登録いただいたメールアドレス等の個人情報は校友会活動以外の目的には利用いたしません。また、情報の管理には細心の注意を払ってまいります。

お問い合わせは校友会事務局（koyukai@tcu.ac.jp, 03-3703-3862）までお願いいたします。

■通友会だより

会長　鈴木　威一（S41通信）

平成28年度総会が平成28年6月21日（土）に開催され、全役員満場一致のご推挙を頂き、新通友会会長に就任いたしました鈴木威一（たけいち）と申します。微力ではありますが今後は大島前会長（S40通信）の路線を継承するとともに、年々新たな事を付け加え、通友会のますますの発展に寄与したいと考えております。特に学科教員との連携強化、学生の会である通工会と協力イベント開催、さらに財務体質の健全化と役員の若返りの4点をこれからの重点と考えます。早速この総会の席に佐和橋主任教授をはじめ教員、通工会役員他学生諸君も多数参加して㈱ボーズの挽野社長（H02通信）による講演とデモンストレーションが盛況裡に行われました。通友会役員も、会計　今井氏（S44通信）、新規に総務　伴城氏（H05通信）、広報　金子氏（H05通信）と大幅に若返り、新財務担当副会長として矢澤氏（S47通信）を加えました。9月には通工会と共催のバス研修会として、NTTとJAXAを訪問しました。11月には学生向け講演会を開催しました。平成29年度総会は、5月20日（土）午後に開催します。詳細はホームページにてお知らせいたします。

■経営システム工学科

主任教授　森　博彦

経営システム工学科は現在、常勤として教授4名、准教授3名、講師3名、技師1名、技師補1名の12名で運営しております。本年度は学科の国際化を目指して、松崎特任教授を中心に「海外社会人講座2016」を12日間にわたり開催、タイから若手の技術者5名を受け入れました。また、薩川技師補を中心として、台湾の政府系シンクタンクである財團法人資訊工業策進會の先生2名をお招きしてのIoTやビッグデータ等の意見交換会を開催、さらに来年度からの交流を目指して、マレーシアの大学に松崎特任教授と私で大学を訪問、打ち合わせと特別講義を行いました。授業の面でも学科の特徴を強める授業として、本学出身で実業界のトップになられた先生をお招きしての「グローバル経営」や、大和証券の寄付講座「証券市場論」などを展開しております。これからも他学にはない学科の独自性を打ち出すための取り組みを全員で進めていきたいと考えております。OB・OGの方にもいろいろとお願いすることもあるかと思います。ご協力のほど、お願い致します。なお、グローバル経営は本年度より二子玉川の夢キャンパスで開催しており、卒業生の方にもオープンにしております。興味のある方はご参加ください。

本学三木学長（写真左）とタイ王国からの受講者5名

■自然科学科

主任教授　飯島正徳

平成27年は、自然科学科8期生26名（男16名、女10名）が入学し、4期生36名（男25名、女11名）が卒業しました。専任教員に変更はありません。平成28年度は、集中的受講による教育効果の向上、自主的な学習体験の促進として、全学的に1年4学期のクォーター制が導入されました。また本学科では学科定員増が認可され、平成29年度から定員60名になります。以下、学科の活動及び近況を紹介いたします。

平成28年度は4月のフレッシャーズキャンプを房総の鴨川シーワールドで行いました。5月には12日間の日程で「野外調査法及び実習(2)」（於スコットランド）が行われ、鈴木先生、萩谷先生、蛭原先生引率のもと3年生9名が参加しました。8月には7日間の日程で宮崎先生（非常勤講師）によるリトルペンギンの帰巣パターン調査（於ニュージーランド）に蛭原先生と学生3名が同行しました。

広報活動強化として、自然科学科の魅力というページを立ち上げ、大学ホームページからリンクしています。また、学科オリジナルサイト（http://www.sci.tcu.ac.jp/）の更新にも努めています。

毎年のことですが、本学科の就職活動では、本学OBの方に大変お世話になっています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

自然科学科の卒業生も、皆様の一員として、本学及び社会に貢献する日が来ることを願っております。

■経友会

■さきがけ

副会長　山田翔馬　(H25自然科学)

早いもので、私たち一期生が卒業後に入学した学生が卒業の時期を迎えました。

今後は接したことのない学生がさきがけの会員として入ってくるため、より同窓会での交流が大切になってくると考えております。

そのためにも、平成29年度は、さきがけ創設以来初のホームカミングデーの開催を予定しており、このような新たなイベントを確実に成功させていきたいと考えております。

さて、自然科学科は平成29年より、入学者の定員が60名へと増加します。それに伴い、さきがけでは、入学者を対象としたフレッシャーズキャンプに要するティーチングアシスタントの費用の一部支援を決定しました。また卒業生に対しては、平成27年度より、さきがけ賞の授与を行っております。

■環境創生学科

主任教授　田中　章

「知らない大学（学部、学科）を受験する人はいない。」校友会関係者にとっては、何のことかと思われるかもしれないが、辛抱して最後まで読んでいただければ幸いである。大学の知名度は大学受験者にとっては極めて重要なファクターである。特に、横浜キャンパス、環境学部、環境創生学科のような新しい組織にとってはなおさらである。

昨年9月、校友会の静岡支部総会で講演する機会をいただいた（静岡支部の報告11ページを参照されたい）。その時の懇親会には多くのご年輩の卒業生が参加されたが、横浜キャンパス、環境学部、環境創生学科をご存じの方はどなたもおられなかった。一方、横浜キャンパスよりもずっと新しい（?）等々力キャンパスの学部学科については多くの方がご存じであった。本学の校友会で、しかも当方の故郷、静岡県でのこの状況はショックであった。

たいへん活発な卒業生の皆さんたちと和やかな会話が進むうちに、その理由に思い当った。世田谷キャンパスには武蔵工業大学の卒業生が、等々力キャンパスには東横女子短大の卒業生がそれぞれおられ、どちらも周囲の方や若い世代に出身校の今をお話しされる機会があるだろう。歴史の重みであり、新しい組織の継続的な広報が重要な所以である。一方、横浜キャンパスには…。

静岡講演でご紹介したように、我々も研究活動を通して知名度を上げるために、地方の中高生や行政、企業との具体的な連携に一生懸命、努めています。どうか校友会関係者の皆さん、「環境保全分野を専門」とする、横浜キャンパス環境学部環境創生学科をこの機会に改めて興味を持っていただき、機会があればご紹介いたければ幸いです。

■環境マネジメント学科

主任教授　小野直樹

地球環境問題には、気候変動、生物多様性など様々な問題がある。その解決には、問題発生の因果関係の究明が不可欠であるが、因果関係が明らかになっても、それらの問題が実際に解決されるわけではない。たとえば、気候変動問題について考えてみると、大気中の二酸化炭素の排出量の大幅増加が原因であることは20年以上前から指摘されているものの、二酸化炭素削減に関する京都議定書が1995年に締結されてから27年目にあたる現在も排出量削減は実現されておらず、この問題への取り組みに関する締結国会議(COP)がこれまで20回以上開催され協議されてきたものの合意に至っていないことから理解される。気候変動問題は、昨年12月にパリで開催された21位回目の会議(COP21)で、ようやく締約国が法的拘束力を前提として削減に取り組むことに合意したものの、最大の排出国の一つである米国でこの問題への取り組みに消極的なトランプ政権が2017年に発足することを考えると、依然として予断を許さない状況にある。このように、地球環境問題は、因果関係が究明されても実際の解決につながるわけではなく、国家にとっての経済性、企業にとっての採算性、法律など国内の制度的および政治的合意、社会の理解、国際政治における合意形成など、因果関係の究明とは全く別の様々な問題への対応と、個人、社会、政府、国際社会などの協力が不可欠である。

環境マネジメント学科は、地球環境問題の実際の解決にとって不可欠な幅広い知識を習得し、社会に貢献する人材を育成することを目的として設立され、その必要性は今後ますます高くなっている。

■社会メディア学科

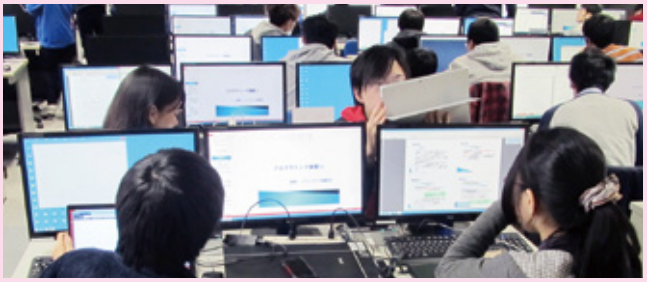
主任教授　川村久美子

社会メディア学科では様々な試みを通して人材発掘に積極的に取り組んでいます。今回は、東京都市大学メディア情報学部主催の「高校生デザイネージコンテスト」を紹介します。私たちの身の回りにある「もの」や「かたち」、それらを活用してわかりやすいサインや標識を創ることは社会にとって大切な仕事です。このコンテストでは、こうしたサインや標識を高校生に丸一日かけてデザインしてもらいます。社会メディア学科が出題するのはピクトグラム部門で、「人を惹きつけるサインや標識（かたち）のデザイン」が課題です。今年のテーマは、「知ってもらいたい日本の文化：日本語が読めない海外の人に日本文化を楽しみながら知ることができる案内・注意・禁止に関する三種類の標識を作成する」でした。作品は8月のオープンキャンパス時に発表され、受賞作が決まります。作品や受賞結果はAO型入試でのアピール材料に用いることができます。平成28年度は、社会メディア学科のAO型入試に昨年の7名の数の受験生が集まりました。もちろん、コンテスト受賞者も受験しました。

■情報システム学科

主任教授　八木伸行

平成28年度は、メディア情報学部情報システム学科の初めての卒業生が出る年です。情報システム学科は、IT/ICT業界でプロジェクトマネージャーとして活躍できるエンジニアを育成することを狙って設置されました。今年の卒業生も多くが、IT/ICTに関わる仕事に就く予定です。情報システム学科では、プログラミング関係の授業が多いですが、プログラミング言語は、英語と同様、道具にすぎません。学生の皆さんには、システムをどう作ったらいいのか、どう作ったら便利な安全なシステムとなるのか、どうしたら早く上手く作れるのかなど、トータルなシステム設計能力を身に着けてほしいと思って、カリキュラムを組んでいます。このために、システムエンジニアを疑似体験するPBL授業も取り入れています（写真はプログラミング演習2Aの授業風景）。大学で身につけた技術力、そして技術力を獲得する方法を自らで身につけたことが、変化の激しいIT/ICT業界を生き抜く基礎力になります。学生時代に学んだことを糧に、大きく羽ばたいてほしいと思います。



■都市生活学科

都市生活学部 学部長　川口和英

都市生活学部は、今までにない新しい発想で創る「都市」をテーマに総合的に学ぶ社会科学系の学部として 2009年 4月に開設し、2013年には大学院（都市生活学専攻）を設置し、学部開設 8年、大学院開設 4年となります。平成 27年度よりカリキュラムを改編し、「社会課題」と「価値ある都市生活」を構築していくために、「都市のライフスタイル」、「都市のマネジメント」、「都市のデザイン」、「都市のしくみ」の 4 領域で教育・研究をすすめています。更に、海外研修（欧州、アジア）に加え、1年次の準備教育と 2年次 5か月間の留学を合わせた「東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）」が本格的にスタートし、第 1期生 78名がエディスコーワン大学（ECU）に短期留学し、既に帰国しています。また第 2期生も 2月より ECU に出発する予定で、こうしたプログラムを駆使し、グローバル人材の育成にも力を入れています。豪州ニューコロンボプランによる学生海外短期派遣事業（10月 28日～ 11月 6日）では ECU の都市計画や都市環境を専門とする学生・教員のために、東京の湾岸沿いや渋谷や二子玉川の都市開発、また歴史都市・鎌倉を巡りながら、日本の都市計画と開発の実際を学ぶプログラムを実施しました。同プログラムには、ECU 学生 10名とティム・パーキンズ先生、また本学からは TAP 参加の学生や本学部の学生が参加しました。

■児童学科　平成 28年度人間科学部の動向

学部長　井戸ゆかり

平成 28年度は 104名の新入生を迎え、スタートした。

4月 7日～ 8日は、フレッシャーズキャンプで河口湖に行き、新入生同士、教員との親睦を深めた。シニアスタッフ（2年生及び 3年生）10名が参加し、新入生の良きロールモデルとなっていた。

大学のグローバル化に伴い、毎年実施される学部の学術講演会は、平成 27年度に引き続き、スウェーデン大使館、本学国際センターとの共催でスウェーデンの児童演劇の専門家を招き開催した。また、「トビタテ！留学 JAPAN」で、カンボジアで 2カ月間の支援活動を行った学生をはじめ、平成 29年 2月には本学部の学生 2名が初めて TAP に参加し、その成果が注目される。

就職に関しては、公務員（公立保育士を含む）に 11月 9日現在で 18名が内定し、例年、多くの公務員を輩出している。（今後の結果発表でさらに内定者が増える予定である）保育者になるばかりでなく、一部上場企業を含めた一般企業に就職する者、大学院に進学する者もおり、卒業後の進路は多岐に亘る。

10月末に行われたホームカミングデーでは、東京都市大学、東横学園女子短期大学の卒業生が一同に集い、世代を超えて交流することができ、これも校友会の皆様のお陰だと深く感謝している。

■楷の木会

会長　吉村正伸（H13 環境情報）

2016年 6月 11日（土）、横浜祭初日、楷の木会主催の平成 28年度 Homecoming Day（第 11回同窓生集い）を開催いたしました。

今回より、「第一部横浜キャンパストークライブ "YC talks"」「第二部懇親会」の二部制とし、第一部では先生と卒業生 3名による講演会を実施しました。

メディア情報学部清水由美子教授による特別講義「社会人になった君たちに贈る補講。」（講義テーマ「ピクトグラム（絵文字）のある世界」）では、多くの清水研究室の卒業生が集まり、懐かしい先生の授業に聞き入っていました。

卒業生による講演「卒業生のいま、そしてこれから」では、1期生 : 川邉雄司さん (H13 環境)「お笑い芸人からの IT 社長」、5期生 : 我妻悠さん (H19 大学院)「IT ベンチャーからフリーランスへ」、6期生 : 植野博士さん (H17 情メ)「電車を売る人」の 3名に大学卒業後のライフイベントを振り返りながら、ご自身の活躍ぶりを講演して頂きました。

第二部の懇親会では、合計 87名にご参加頂き、多くの在校生も参加しました。開催中には託児所とキッズスペースを設置し、お子様連れでのご参加がしやすいように配慮いたしました。
平成 29年度もみなさまのご参加をお待ちしております。

■新美砂会便り

副会長 川辺加代子（S50 国文）

はじめに、平成 28年は 4月の熊本地震を始め各地で多くの災害が起きました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

― 報告 ―

◇新美砂会総会・等々力キャンパスホームカミングデー開催

平成 28年 10月 31日、第 2回総会を開催し、本会の活動・会計報告と母校と校友会としての取り組みの状況などを報告いたしました。引き続き昨年同様に等々力キャンパスホームカミングデーが開催され、ご来賓の先生方や卒業生とともに懇親を深めることができました。今回は若い等々力会メンバー中心に会の進行を行ったので、今までにも増して明るく楽しいホームカミングデーとなりました。

◇新美砂会イベント開催

平成 28年 12月 11日に迎賓館赤坂離宮見学をメインのバスツアー参加を企画しました。念願の迎賓館見学では日本近代の歴史と建設当時の粋を集めた内装・外観など、まるで別世界に居るかのような感動を味わいました。年末の時期とあって少ない人数ではありましたが、快晴のもと楽しい時間を過ごすことができました。

― お願い ―

新美砂会員は現在住所登録者数約 2万人余りですが、残念ながら総会や地方支部総会などの校友会諸行事に参加される方は極少数です。会報やホームページ、登録アドレスへ送信される情報に関心をもっていただき、積極的に参加してくださいますよう、よろしくお願いいたします。

■共通教育部

人文・社会科学系

主任教授　岩﨑　敬道

本学系は，人社教育・体育教育・教職教育の３部門からなり，各部門それぞれの課題を追求し，さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう，日々努力を重ねています。

◎人文・社会科学教育部門

教授　新保　良明

教養科目は 1990 年代初頭の大学設置基準の緩和によりないがしろにされてきた過去を持ちますが，近年は逆に企業から大学卒業にふさわしい教養が求められるようになっています。ところが，たとえば，キリスト教に関連してイエス・キリストを話題にする場合，残念ながら「イエス」を個人名，「キリスト」を名字と捉えている学生が少なからずいます。グローバル化が叫ばれて久しい中，我々が教養を学生に身につけさせていくかは大きな課題でしょう。

その一方で，全学的な教養科目の開講数は同規模の大学のそれを凌駕しており，学生にとって恵まれた履修状況にあると言えましょう。とはいえ，希望する教養科目の開講日・時限と専門の必修科目，実験・実習科目のそれとが重なれば，学生が専門科目を優先せねばならない履修状況にあることも事実です。

千田茂博先生が勤続 30 年を迎えられました。

◎体育教育部門

教授　渡辺　一郎

体育部門は SC4 人，YC1 人の５名体制で体育教育を担当しております。昨年４月から１年間，椿原准教授がＮＺカンタベリー大学に留学し，現在４名にて運営しております。各教員ともラグビー，テニスや剣道，ハンドボールとそれぞれの専門種目を生かしてクラブの指導に熱心に取り組んでおります。また一方で，筋力系の低下が顕著な本学学生に対し効果的な運動療法やわかりやすい講義を行って少しでも体力アップに寄与するよう日々努力しております。SC では体育実技が必修であるため対象学生全員に十分な指導ができる一方，クオーター制度の導入により選択科目としての体育実技の履修が困難な状況になってきており，YC，TC ともに履修者数の大幅な減少になっております。この課題を改善するためにできるだけ多くの学生が体育実技を履修するよう日々努力を重ねております。将来的に体育科目の必修化を目指し，体育スタッフが協力して実現に向けて更なる努力をしていく所存です。

◎教職教育部門

教授　岩﨑　敬道

教職教育部門は，中・高等学校の教員養成を主たる任務としています。平成 28 年度も多くの学生たちが教員を目指しています。例年のように横浜市の中学校教員に合格していることに加え，今年は東京都，群馬県にも専任教諭として平成 29 年度から教壇に立つ予定です。この他にも，神奈川県の常勤の教員を見込んでいる学生もいます。教職科目の授業はもちろんのこと，教員採用試験対策とこれに応える学生たちとの連携が図られている結果だと思います。

長い間お世話になった岩﨑が平成 28 年度で定年を迎えます。

自然科学系

主任教授　山口勝己

平成 28 年度は、12 名の専任教員、５名の客員教授、60 名の非常勤講師という体制で、主に工学部・知識工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。化学・生物・地学教育部門については、知識工学部自然科学科の教員が担当し、数学、物理部門についても自然科学科の教員と連携して教育を行っています。また、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

◎自然科学系／数学教育部門

金川教授、井上准教授、古田准教授、矢作教育講師（平成 28 年度まで）の４名体制に加え、自然科学科の吉野教授、橋本教授、中井准教授と連携して教育研究活動を行っています。また、客員教授を北垣郁雄・広島大学名誉教授、野原勉・本学名誉教授、知沢清之・管理工学研究所 (株) 相談役に委嘱し、数学部門の教育と研究に関して助言をいただいています。

◎自然科学系／物理教育部門

岩松教授、長田教授、須藤准教授、中村講師、右近教育講師及び菅谷技師捕の６名に加えて、自然科学科の飯島教授、門多講師と連携して教育研究活動をおこなっています。平成 28 年度限りで岩松教授が退職され、平成 29 年度より新しい教員を迎える予定となっております。また客員教授を岡部豊・首都大学東京名誉教授に委嘱し、物理部門全体の教育と研究に関して助言をいただいています。

◎自然科学系／情報教育部門

山口教授、安井講師の２名体制で、主に工学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

外国語共通教育センター

主任教授　土肥一夫

外国語共通教育センター設立からの近年の数年間に、主に等々力キャンパスの学生が世田谷で履修する機会が増えました。また、社会での英語の重要性を意識し、教養科目を含め英語による授業も少しずつ増えています。センターでは学生の英語力向上のため、さらに内容を充実させたいと考えています。

専任教員では 27 年度をもって宮崎幸子講師が退職され、後任として 28 年４月に和田忍講師が着任し、世田谷と横浜の二つのキャンパスで授業を担当しています。

前会報で述べたように、学生は入学直後と１年生終了時に英語基礎学力テストを受けますが、今年度から新たに２年生終了時にも同テストを受けることになりました。今年度の入学生は昨年度比で学部による違いはあるものの、全体的に著しい変化はありません。学生の実態を的確に把握し、英語力の向上に取り組むことになります。なお、2014 年と 2015 年の４月に実施した英語基礎学力テストに関しては、『東京都市大学　教育年報』第 26 号（2016 年３月）の 120 ー 131 ページをご参照ください。

社会では TOEIC 等を重視する傾向が強くなり、都市大の学生も呼応するように受験しています。英語力向上には毎日の学習が不可欠です。スマホ世代の学生が利用可能な学内を含む学習方法の PR も強化し、実践力に必要な読み・書き・聞く・話すというコミュニケーションの基本の重要性を再認識させ、懇切丁寧な指導に努めたいと思います。